

(2) 名蔵湾定置網漁獲量調査

前年度に引き続いて定置網漁獲量調査を実施した。方法は前年度と同じで、昭和62年1月から12月までの1年間の魚種別月間漁獲量を調べて季節的变化を調査した。

1988年1月11日現在の名蔵湾内における定置網の設置場所は図13に示す通りで、多少の変動はあるがほぼ前年度と同じ位置である。魚種別月間漁獲量は表5に示すとおりで、今年度は58魚種等で合計約19トンの漁獲量と過去の調査とはほぼ類似した傾向がみられる。図14に昭和59年から漁獲変動を示すが、昭和62年の漁獲量のピークは4月から6月にかけてで1~2月、7~8月、および11月が多少他の月に比べて漁獲量に減少がみられる。年間漁獲量は過去の値とほぼ同じである。図15に年間漁獲物の魚種別構成比率を示す。昭和62年度はアイゴ類は他の年と同じく約30%の組成比で、その他の魚種にもほとんど変化はみられないが、ハタ類が多少少ないように思われる。全体的にはその他の比率が増加している。

アイゴ類の月間漁獲量の変化は図16に示す通りである。全体的傾向はほぼ過去の資料と同じであるが、ゴマアイゴでは5~6月頃に漁獲量のピークがみられ、その他10~11月頃にかけても多少増加する。シモフリアイゴでは4月から6月にかけてピークがみられ、10月頃からも多少増加する。

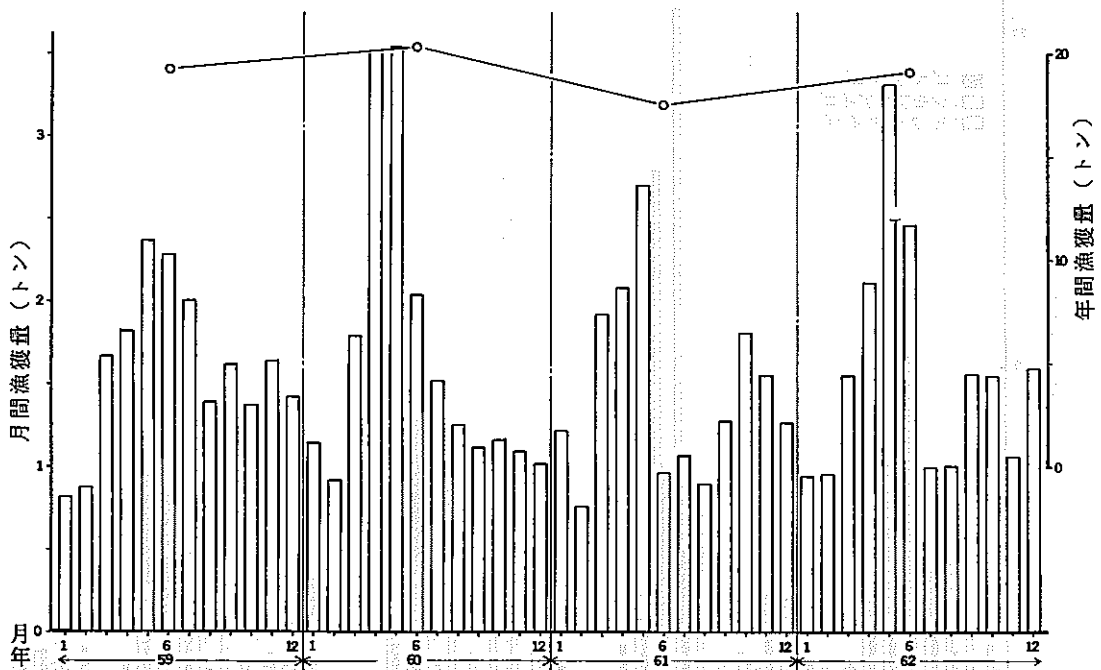


図14 定置網漁獲量の経時的変化

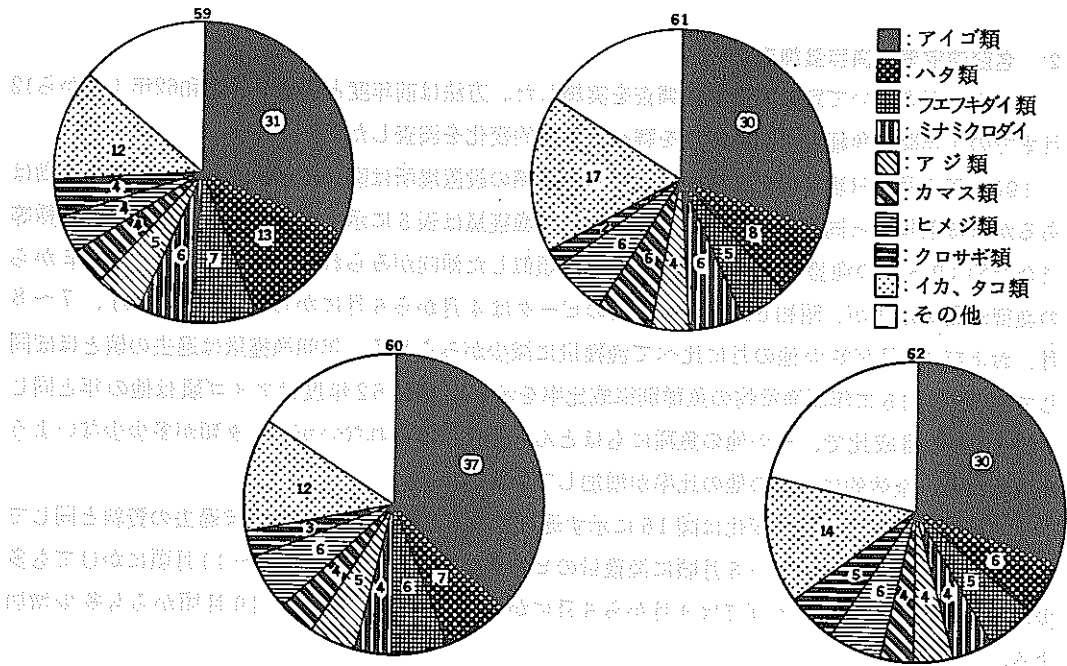


図 15 定置網年間漁獲量における魚種別割合

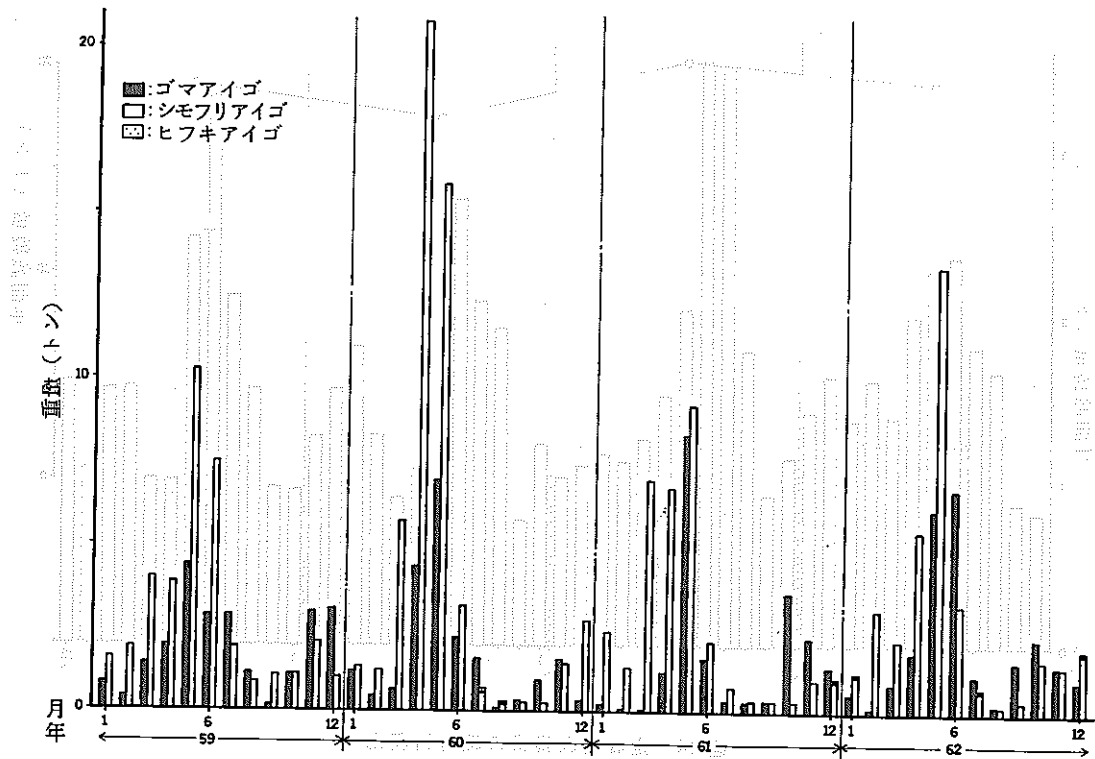


図 16 アイゴ類の月間漁獲量変化

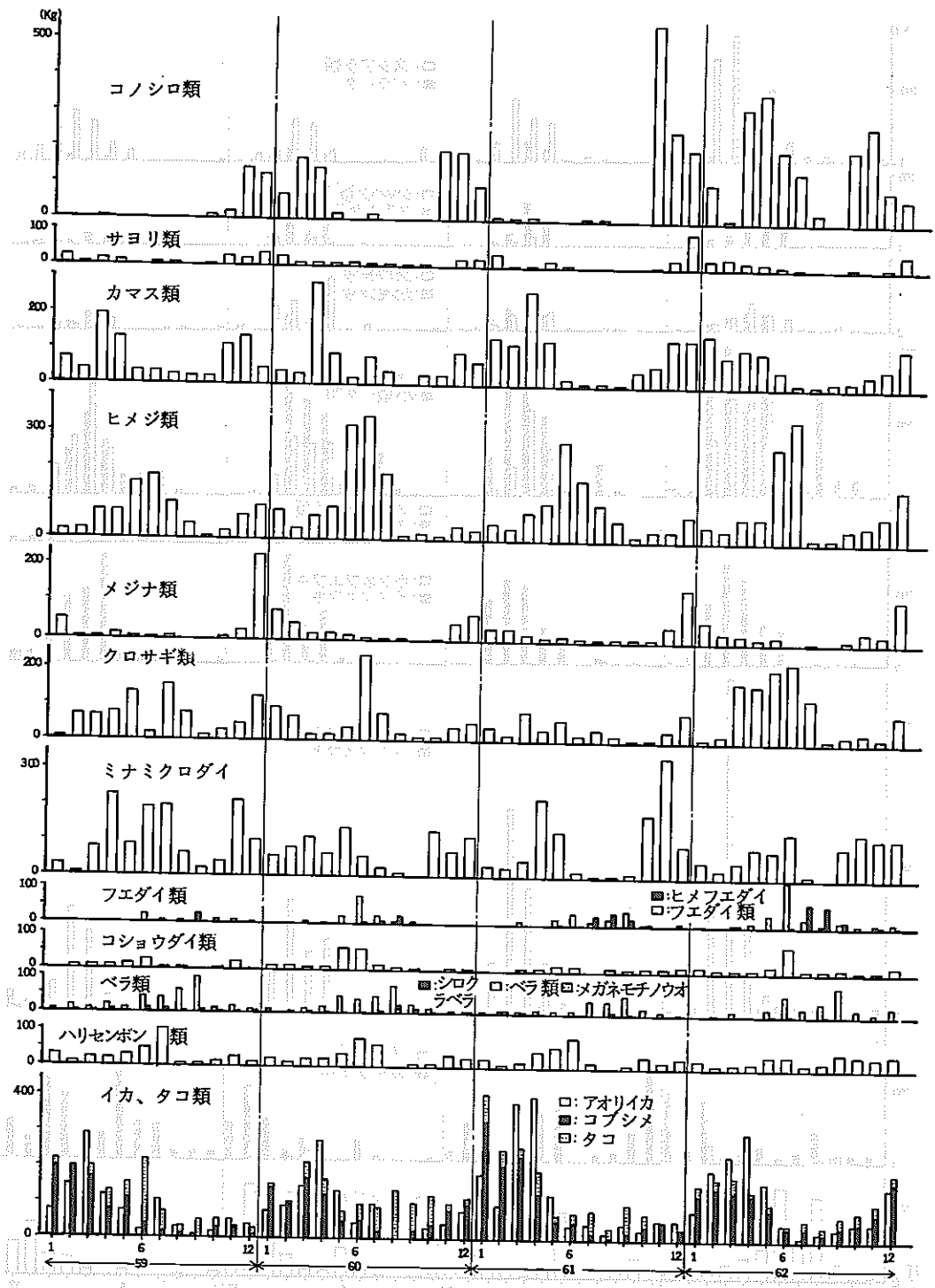


図 17 主要魚類等の月間漁獲量変化

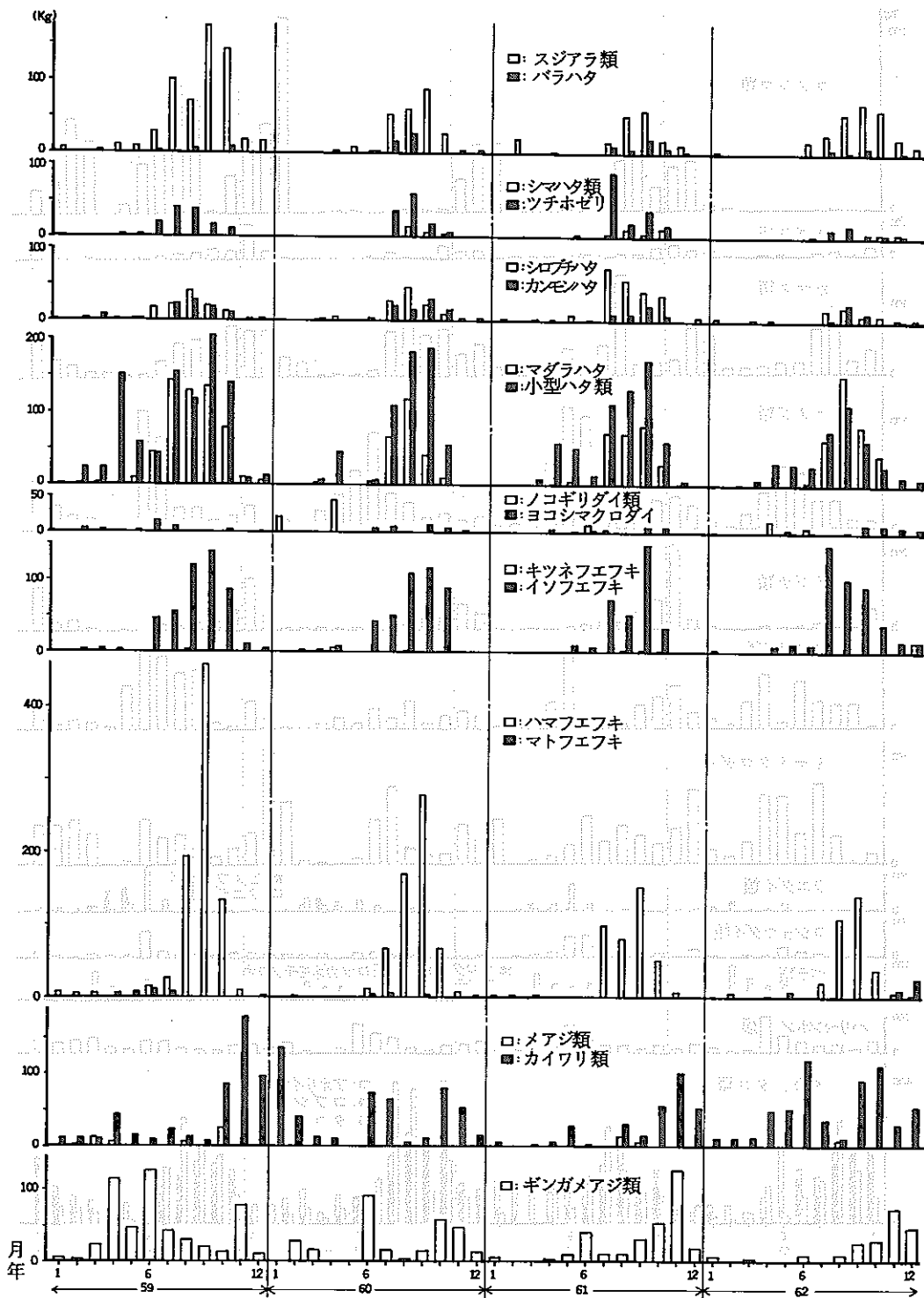


図 18 主要魚類の月間漁獲量変化

主要魚類等の月間漁獲量変化は図 17 と 18 に示す通りである。コノシロ類では昭和 62 年は 3 月から 6 月と 9 月から 10 月にかけて漁獲量に 2 回ピークがみられた。サヨリ類とカマス類では類似した変化がみられ、昭和 61 年 9 月頃から昭和 62 年 5 月頃の冬季に漁獲量が増加した。この傾向は 62 年の後半にも引き続いてみられる。ヒメジ類の漁獲量変化はアイゴ類と類似しているように思われ、昭和 62 年では 5～6 月にピークがみられ、11 月以降にも多少増加する傾向がみられる。この傾向は過去の資料にもほぼ当てはまるように思う。メジナ類の漁獲量は 12 月を中心とした冬季に増加する。クロサギ類は昭和 62 年では 3 月から 7 月にかけて大量の漁獲がみられた。ミナミクロダイは周年を通して漁獲されているが、7～8 月頃を中心として漁獲量の少ない時期がある。フエダイ類は 6 月を中心として、ヒメフエダイではそれより少し秋よりにピークがみられる。コシヨウダイ類は一年を通して漁獲されているが 6 月にピークが、ベラ類では 6 月から 9 月にかけてピークがみられる。ハリセンボン類は昭和 62 年は年間を通して漁獲され、イカ・タコ類はアオリイカとコブシメでは 1 月から 5 月と 12 月に漁獲量が増加する。タコは周年漁獲される。

ハタ類漁獲量の季節的变化は図 18 に示す通りでスジアラ類、バラハタ、シマハタ類、ツチホゼリ、シロブチハタ、カンモンハタ、マダラハタ、および小型ハタ類いずれも 8 月から 10 月を中心としたピークがみられる。フエフキダイ類はイソフエフキでは 7 月から 10 月、ハマフエフキでは 8 月から 10 月に漁獲量のピークがみられる。アジ類ではカイワリ類が 10 月から 12 月、ギンガメアジ類が昭和 62 年は 9 月以降に比較的漁獲量が多かった。

表 6 人工礁への魚類等の増集状況

1987. 8. 4 晴れ 水深 12m

	数	場所
ヘラヤガラ	1	I
アヤメエビス	1	I
ヨスジフエダイ	50～60	I
ロクセンフエダイ		I
アジ sp.	20～30	O
ミツボシクロスズメ	50	I
ホンソメワケベラ	2～3	I
ブダイ spp.	2～3	I
ツバメウオ	5～6	I
トゲチョウチョウウオ	2～3	I
フライチョウチョウウオ	4～5	I
ハタタテダイ	4～5	I
ツノダシ	4～5	I
ハコフグ	1	I
シマキンチャクフグ	1	I
カキ	5～10	S

I: 礁内空間, O: 礁外空間, S: 礁壁面上